

7月9日(火)

キリストにある自由！

聖書朗読 ガラテヤ 2:1~10

キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。
ガラテヤ 5:1

多くの人がキリストをのべ伝えますが、他のたくさんの働きによって、これを優先できなくなってしまうことがあります。あなたはそうであってはなりません。キリストはあなたの「働き」がなくてもやっていますが、「あなた自身」を必要としておられます。そしてキリストが本当の意味であなたを手に入れたとき、あなたの全ての働きも手に入れるのです。活動的にキリストに仕えていながら、同時に彼を愛することを忘れてしまうことは、可能なことなのです。

P. T. Forsythe (イギリスの神学者)

どんなに高く「良い働き」の山を築いたとしても、私たちの救いに関しては、自分達だけではどうすることもできません。様々な正しい教義が束になってかかっても無駄です。私たちは『恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。』(エペソ2:8)。『神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。』(1ペテロ 1:3)。

神様は私たちの全てを知っておられ、それでもまだ私たちを必要としていらっしゃる。神様は愛によって私たちに手をさしのべてくださり、私たちの神様に対する愛は、神様を求め、信仰をもち、愛し、敬い、賛美する原動力となっています。
グレン・オーウェン

讚美歌 第二編 167

祈り 天の父なる神様。あなたの栄光ををほめたたえられますように、義の道を示してください。

イエス様の御名を通して。アーメン。

ウォルター・E・バーチ

カリフォルニア州 シミバレー

7月10日(水)

ピントを自分からずらす

聖書朗読 ローマ 12:1-8

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を超えて思い上がってはいけません。 ローマ 12:3

私たちの教会では、ロビンという女性が写真係を務めています。何年間も、彼女が、それこそ教会の食事会から結婚式まで、あらゆる教会行事の記録写真を撮っています。なにか行事があると、そこには必ず彼女がいて、静かにそして控えめにスナップ写真を撮っています。ところで、彼女が撮った何百枚という写真を見ると、何か足りないことに気づくはずですよ。そうです、彼女の写真が一枚もないのです。あなたはきっとこう言うでしょうね。「そんなこと決まっているじゃない、だって、彼女はカメラの後ろ側にいるんですもの」

ロビンは、キリストの教えのすばらしいお手本を私たちに示してくれているのではないのでしょうか。というのは、私たちが、廻りの人たちにピントを合わせ、自分中心ではなく人を中心に生活するならば、写真の枠の外、自分という枠の外に出るはずですよ。自分からピントをずらし、恵みというキリストのレンズを通して人を見ることによってこそ、心から満ち足りると、キリストは語っておられます。

讚美歌 391

祈り お父様、あなたが人をご覧になるように、私もあなたの御目を通して人を見ることができるよう。今日、助けてください。自分はまだキリストゆえに、価値がある者だということを覚えることができますように。御子の御名において、アーメン。

アリソン マーチン

ルイジアナ州、シュリープポート

7月11日(木)

信仰のなぞなぞ

聖書朗読 ルカ 17:20～23

キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。そしてあなたがたは、キリストにあつて、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。
コロサイ 2:9～10

なぞなぞがあります。世界中の人々が入れるような「とっても大きく」で、私たち一人一人が持つことのできる「とっても小さな」ものはなんでしょう。

これに対するイエス様の答えは聖書の最もよく知られている部分に書かれています。主の祈りです。「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。」神様は世界と天国を満たす「とても大きな」御心を持ち、そして私たち一人一人の中に来てくださいます。

似たようななぞなぞがあります。子どもでも理解できるほど「とても易しく」で、どんなに頭の良い人でも間違えて意味を取ってしまう「とても難しい」ことはなんでしょう。それは神の国のメッセージです。小さな種は、それを受け取ったすべて人は自由に見ることができますが、「聞く耳」や「見る目」を持つ者たちだけがその力と育つための強さを授かることができます。小さなマスタードの種粒は3羽の鳥が休める木に育ちます。一つまみのイースト菌はパンになります。天国の力は小さな子どものように純真になり受け止めることができた時だけ、私たち自身のものになるのです。

聖歌 608

祈り 親愛なるイエス様。今日私の心にやってきてあなたのパワーを体験させてください。難しいことに向かい、今日やってくるチャンスをつかませてください。私の存在を通してあなたの御心がなされますように。

イエス様の御名を通して。アーメン

ジョー・ハッカー
アラバマ州 ハンツビル

7月12日(金)

救いと対立

聖書朗読 使徒 13; 1～12

そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

ヨハネ 8:32

ほとんどの人は、対立を楽しむようなことはありません。私たちは、皆が集まったところでは、楽しい会話を好みます。固いクリスチャンとしての信仰を表現することは、しだいに禁止されてきているようです。

攻撃的で、悪態をつくような霊を採用することは、確実に得ではありません。しかし、時として、しっかりした立場をとらなければならないときがあり、そのようなことがなされないことに同意します。

バルナバとパウロはキプロスや小アジア下部での伝道旅行を始めることはしませんでした。そこで彼らは二人の人に出会いました。一人は福音に心を開いており、もう一人は同じ福音のメッセージに頑強に反対する者でした。このような状況の下では、宗教的抵抗力はセルギオ・パウロに永遠の救いをもたらすことはなかったでしょう。魔術師エルマへの対応として、パウロは彼のメッセージが真理であり、エルマの立場は悪魔からきたものであることを公言しました。

私たちが毎日を過ごすときにも、福音の真実が話されるべき機会に敏感であるべきです。親切が決して否定されることがないように、真理が犠牲になることはありません、私たちが自由にしたのは真理ですから。

讃美歌 502

祈り 主なる神様。この日を通してあなたの真理が聞かれる必要のあるところで、それを話す力と知恵を私たちに与えてください。「愛を持って話す」ことができるようにしてください。

イエス様の御名により。アーメン。

リチャード・オルフ
カンザス州 オレイス

7月13日(土)

イエス様はなぜ涙を流されたのでしょうか

聖書朗読 ヨハネ 11:28~44

ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。
マタイ 23:37

もしイエス様が私たちの前に奇跡をおこす完璧な人として現れたとしたら、私たちも、イエス様は完全に私たちの理解を超えた人だと感じることでしょう。「いったいどうしたら私たちのような罪人がこの人のそばに寄ることができるだろう。この人は私たちとあまりにも違う」。

しかし、イエス様は神にとっての私たちと同じ境遇になってみるための手段であり、私たちはイエス様が空腹やどの渇きを覚えたり、怒ったり、人々が神の慈悲を拒絶した時に嘆いたり、「イエスは涙を流された」という個所を読むときに、それを覚えることができます。

なぜ主はラザロの墓で泣いたのでしょうか。もしかすると主は、友人が亡くなった時に私たちが感じるように、悲しかったのかもしれない。あるいは、お墓に集まった人々の信仰の薄さにがっかりしたのかも知れません。主の愛する兄弟たちが住む、病と死が蔓延した墮ちた世を憂いたのかもしれない。理由は何であれ、イエスは私たちがするように涙を流したのです。このことこそ、神が私たちの悲しみであれなんであれ、そばにいて分かち合ってくださいということなのです。

神はただ遠くにいる私たちとは全く違う存在というだけでなく、イエス様を通して私たちに繋がり、私たちの喜びのときも悲しみのときも共にいてくださることを覚えていきましょう。

讃美歌 第二篇 30

祈り 私たちの父よ。私たちと共にいてくださるだけでなく、私たちの一人として生きたため、私たちを理解してくださることを教えてください、ありがとうございます

イエス様の御名において。アーメン。

ブライアン・ヒュメック
テキサス州 アーバイン

7月14日(日)

私はまず主の姿を見たいのです！

聖書朗読 ヨハネ 17:21~24

愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかになっていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似たものとなることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿を見るからです。
I ヨハネ 3:2

キリスト教の賛美歌に関連する名前ではファニー・クロスビーの名前ほど、よく知られている名前はありません。幼い頃、彼女は不適切な投薬が原因で視力を失いました。彼女が物を見た記憶があるかどうか、私には分かりません。

私が聞くところによると、晩年、ファニー・クロスビーは眼の専門医から視力を回復できるかもしれない、と提案されたというのです。彼女はなんと返答したでしょうか？「いいえ、結構です。私が一番に見たいのは、私の救い主の御顔なんですから」。

ファニー・クロスビーは違いますが、賛美歌の作者の中にも、天国の黄金の通りや真珠のゲートに夢中になって、これらのものが救い主の顔を見るよりも大切になっている者もいます。

私が育ったテネシー州の小さな村の教会では、私たちはよく次のクロスビーの歌詞を唱っていました。

*昔の幸せな歌に、私は喜びを混ぜ込むの。
だけど、何よりもまず私の救い主に会いたい。
その光景は、真に美しいものでしょう。*

讃美歌・第二編 194(ファニー・クロスビー作)

祈り 聖なる御父様。あなたの御子であり、私たちの愛する方の御顔を見ることが希望の内にある私たちの喜びを更に深めてください！

イエス様の素晴らしい御名を通して。アーメン。

ロバート・W・ローレンス
ネブラスカ州 ヨーク